

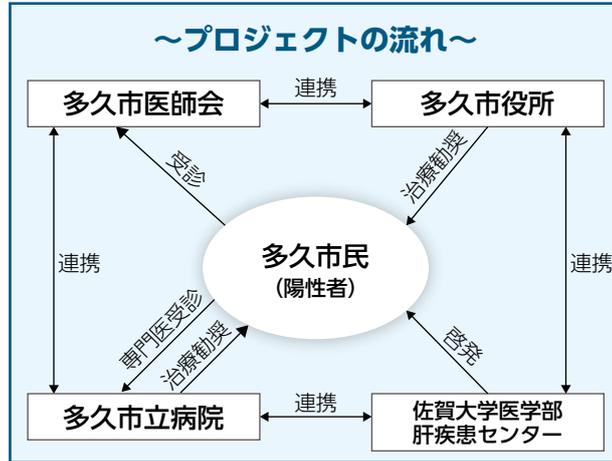
早期発見！早期治療で

肝がんを撲滅しよう！

～多久市肝がん撲滅プロジェクトがスタート～



▲3月19日に多久市立病院で行った第1回全体会議。関係機関でのデータの一元化など、活発な意見交換が行われ、肝がん撲滅に向けての一步を踏み出しました。



肝がん撲滅に向けて
新たな取り組みがスタートしました！

多久市肝がん撲滅プロジェクトは、横尾俊彦市長、多久市立病院前院長の原田真美医師、佐賀大学医学部肝疾患センター教授江口有一郎医師をリーダーとして、県内で初めて公立医療機関や行政が一体となって、肝炎ウイルス対策に取り組むプロジェクトです。今回のこのプロジェクトのメインは「**多久市民**」です。

ここが違う！新たな挑戦！！

これまでは、肝炎検査で陽性と診断された市民へ、市役所から個別に訪問などを行い、肝炎治療を勧めてきました。これからは

1. 肝炎検査以外でも多久市立病院で血液検査を実施した患者が、肝炎と診断された場合は、積極的に治療を勧めていきます！
2. 多久市医師会と多久市立病院が連携し、肝炎患者をサポートします！
市立病院以外の市内の医療機関でも市立病院と同じように肝炎と診断された場合は、積極的に治療を勧めていきます！
3. 市民に対して、更に肝炎についての啓発活動を行っていきます！

知っているようで、知らない肝臓の病気について、医師に聞いてみよう！



肝炎ってどういう病気なの？

A. 肝炎には「慢性」と「急性」があり、「急性」は黄疸などの自覚症状があるため、ほとんどの人が早期治療を行っています。問題なのは「慢性」です。慢性肝炎にも自覚症状はありませんが、見過ごされがちです。慢性肝炎になると肝臓の炎症が長期にわたるため、壊れた肝臓細胞を埋めようとして線維成分が蓄積します。これが進展すると肝硬変や肝がんになります。日本では「慢性」の約70%がC型肝炎ウイルス、15～20%がB型肝炎ウイルスによるものです。



B型慢性肝炎・C型慢性肝炎ってどんな病気なの？

A. 肝炎ウイルスが血液を介して人から人へと感染します。C型慢性肝炎は感染後1～3か月の潜伏期を経て急性肝炎を発症し、約70%の人が慢性肝炎を発症します。

B型慢性肝炎は、数か月程度の一時的な感染後に治る場合と、持続的な感染が成立する場合の2つのパターンがあります。1度でもB型肝炎ウイルスの持続感染が成立すると、以後の血液検査ではHBs抗原陽性となり、肝硬変や肝がんになるリスクが高くなるので、治療や定期的な検査が必要となります。



そもそも肝臓がんの原因ってなに？

A. 肝がんの原因は、約72%がC型肝炎ウイルスによるもので、約17%がB型肝炎ウイルスによるものです。自覚症状に乏しく、「がん」が進行してから初めて腹水・黄疸などが出現してわかることが多い状況です。肝がんはウイルスだけが原因ではありません！約11%がアルコールなどの要因で発症しています。



Q. B型やC型肝炎ウイルスに感染するの？

A. B型・C型肝炎は、感染している人の血液が他人の血液に入ることで感染します。現在では輸血などの医療行為で新たに感染する人は非常に稀になっています。しかし、麻薬・覚せい剤の注射針や注射器の使い回し、ピアスの穴あけやタトゥー（刺青）の際に消毒不十分な器具の使用による感染が依然として報告されています。

※日常的な生活で周囲の人に感染することはほとんどありません。しかし、B型肝炎は性行為で感染することもありますので、パートナーにも検査をしてもらいましょう！